

会議等名	平成 29 年 第 3 回海老名市外部評価委員会
日 時	平成 29 年 7 月 10 日 (木) 13 : 30 ~ 15 : 30
場 所	海老名市役所 7 階 708 会議室
出席者	外部評価委員：城向委員長、市川副委員長、大島副委員長、高橋委員、霜田委員、杉山委員、菅生委員、谷村委員、長谷川委員、山田委員、田中委員、武井委員（以上 12 名出席） 事務局：清田課長、石田係長、國本主任主事、木村
<p>1. 開 会</p> <p>2. 委員長あいさつ 委員長 外部評価は、例年行っている事務事業評価が終わり、今年度はこの後に補助金の見直し評価を行うこととなっている。財政がひっ迫していない状況で廃止や削減などの判断を行うのは非常に難しいのではないかと感じている。市民目線でしっかりと行ってきたい。</p> <p>3. 議題 (1) 補助金の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金見直し評価については、市民感覚による判断が必要と考えている。選択肢は事務事業評価に比べ、廃止や削減に重点を置いた選択肢（A～H）となっているが、現段階までの評価で、『H その他』も活用している。この『H その他』の選択肢は、事業統合や現状継続など、広く活用されていることから、外部評価を行う際にも同様に活用してもらいたい。（事務局） ・ 現段階での評価で『選択肢A 見直し不要』となっている評価についても、評価対象としているか。（委員） → すでに省いてある。例えば開始から 3 年以内の補助金は、新しい施策であることから、見直す必要はないと判断している。また、国や県で行っており、市の裁量がない事業についても『見直し不要』と判断し、基本的には省いている。（事務局） ・ すでに評価を行った海老名市かがやき持続総合戦略事業（以下、総合戦略事業）と、今回評価を行う補助金の見直し評価で重複する事業も散見されるが、両方の評価の整合性はどのように図るか。（委員） → 総合戦略事業の評価を行ったグループと補助金の見直し評価を行うグループは、できる限り同じグループとするように割り当てている。各グループで評価を行う際に、整合性についても配慮いただきたい。必要に応じて事務局にて確認を行う。（事務局） ・ これまでに行った 3 段階の評価がすべて同様の評価でない（不一致）事業、3 段階すべての評価が一致している事業と分けて示している。 	

見直しの対象としては、すべての事業を対象としたいが、審議の時間配分などを検討する際の参考としてもらい、評価の方法については、各グループで判断をしてもらいたい。(事務局)

- ・ 事務局の意向としては、作業量の観点から事業減らすことを検討すると、現段階での評価がすべて一致している事業、一致していない事業という分け方をすることで、おおよそどのグループも全体の半分程度の事業数となったことから、不一致の事業の評価を行うのがよいのではないか、ということによいか。(委員)

→ そのとおり。

国や県で補助を行っている事業についてはヒアリングの際に個別に説明するが、市として単独で行っている事業とされている事業のなかでも、“国や県が行わないから市が単独で行っている”事業と、“国や県が行っている補助では不十分であることから市が単独で上乗せを行っている”事業がある。(事務局)

- ・ 国庫補助事業は、評価・検討する余地があるのか。(委員)

→ 国庫補助事業として、国から補助が出ているが、補助を受けるか否かの判断は市で行っている事業もある。そういった事業については、見直しの対象となり得る。(事務局)

- ・ 前回(平成24年度)評価を行った際の様子を教えてください。(委員)

→ 今回は、団体補助と個人補助すべての補助金事業を対象としているが、前は団体補助に限って評価を行った。(事務局)

- ・ 現段階までの評価がすべて一致しているのにもかかわらず、外部評価が異なった場合にはどのように対応するのか。すべての評価段階で、評価結果が異なった場合にはどのようにするか。(委員)

→ すべての補助金見直し事業評価が終わった段階で、財務部の総括を行う。外部評価委員会の意見は市民の方からの指摘であることから、外部評価委員会の意見を重点的に、それまでの経過についても勘案しながらまとめていきたい。部のなかで総合的に判断を行う。

- ・ 『〇〇円削減する』など具体的な目標はないが、できる限り無駄を省いていきたいということが主旨だと思うが、補助金の見直し評価を行うことの目的が不明瞭であるように感じる。(委員)

→ 漫然と補助を行ってしまっている事業もある。財政改革が必要であるという外圧がかかることで、それらを見直すきっかけとなることを期待している。見直した結果、継続することも考えられる。(事務局)

- ・ 3日間程ですべての事業の評価を行うのであれば、事前の読み込みが大切となってくる。グループ別作業の際には、担当部課の意見等を直接聞くことができるのか。(委員)

→ 総合戦略事業評価のように、担当部課のヒアリングなどを行う予定はない。企画

財政課が担当部課へヒアリングを行っており、グループ別作業にも出席するので、その場で回答できるものはその場で回答し、必要であれば担当課への確認や資料収集も行う。(事務局)

- ・ 最終的なアウトプットについては、どのように行うか。市民に対してはどのように周知するのか。(委員)
- ホームページに行政評価結果報告書を掲載する。また、10月から行われる予算編成の際に政策的経費として扱い、1件ずつ財政係による査定の対象とする。(事務局)
- ・ 1人1人補助金に対する意見の違いある。すべての調書に目を通し、評価が一致している事業については、それぞれの委員が深く議論を行いたい事業を洗い出し、評価を行う方法がよいと思う。(委員)
- ・ 外部の視点を入れたいというのが趣旨であるならば、すべての事業の評価を行うべきであると考え。しかし、委員のみなさんからの意見も鑑みてそれが難しいようであれば、評価が一致している事業については、事前に確認し、気になる事業を各委員で洗い出しておき、グループ毎に注力する事業を決める方法もある。(委員)
- すべての事業に目を通していただき、深い議論を必要としない事業については、それまでの評価の追認としていただくのも方法の一つである。(事務局)
- ・ 補助金の見直しは5年に1回にするなど定義づけはしておいた方がよいのではないか。実施する年には、事務事業評価は行わないこととすることも検討すべきである。(委員)
- ・ すべて「見直した」という実績は必要ではないか。実際のグループ作業の中で、評価の濃淡を検討して評価するのがいいと思う。そうでなければ、「評価を行う事業は半分のみ」と割り切ってしまうべきである。すべて見直すべきであると考えているのであれば、限られた時間のなかで工夫して行うしかない。(委員)
- ・ 全体的な評価を希望するのであれば、課毎に分けて一覧にする方が見やすいと思う。今回、すべての評価が一致している事業、一致していない事業と分けて示していることでこのような議論となったが、例えば初めから課毎に分かれており、その順番で評価をしていったら、結果として評価が一致している事業にかかる時間は少なく、一致していない事業では深い議論となる可能性が高いのではないか。(委員)
- 現段階では評価がすべて一致しているか否かで示しているが、課毎にまとめ、お示しすることとする。(事務局)
- ・ 最終的にいつまでに評価を行ったらよいのか。(委員)
- 8月8日行う全体会では、外部評価結果報告書の全体をお示ししたいと考えている。現在の予定では、7月31日までがグループ別作業の日程となっているが、全体会の日程から考えると、2日程度の延長までが限界である。(事務局)
- 全ての補助金について評価を行うことで委員了承。評価の方法については、グル

ープ別作業の中で決定していくこととする。

(2) 平成 29 年度外部評価結果報告書（案）について

- ・ 報告書内の総括意見について、委員の生の意見を反映させる意味でも、箇条書きの方が見やすいのではないかと。(委員)
 - ・ 事業の詳細を知っている人が見れば、箇条書きでも分かり易いかもしれないが、全体的にどういった意見なのかがわかりづらい。外部評価委員会の意見として、ひとまとめの意見にした文章とするのがよいのではないかと。(委員)
 - ・ 事業に対する意見については、それぞれが重要な意見であるように感じる。この箇所については、箇条書きで残していく方がいいのではないかと。(委員)
- 全体の総括意見としてA 4でひとまとめにし、案で示している個別の意見についてはこのまま『個別の意見』として掲載することとする。事務局でまとめの案を作成し、委員長へメールで確認する。委員長確認後、副委員長及び各委員へメールにて案を送付する。(事務局)

4. 次回全体会日程

平成 29 年 8 月 8 日 (火) 10 : 00～
市庁舎 7 階 703 会議室

5. 閉 会

以 上